

# Marvelous

変額個人年金保険(2005) [マーベラス]

## 特別勘定運用レポート

### (組入投資信託の運用状況)

特別勘定の名称	投資信託の名称	投資信託の運用会社	ページ
バランス25	中央三井バランスVA25	中央三井アセットマネジメント株式会社	1
バランス37.5	中央三井バランスVA37.5		2
バランス50	中央三井バランスVA50L		3

- ・変額個人年金保険は特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、ご契約者が投資信託を直接保有するものではありません。
- ・当資料は、運用会社が作成する運用報告を三井住友海上メットライフ生命が参考情報としてそのまま提供するものであり、内容に関しては、三井住友海上メットライフ生命の責めによるものを除き、三井住友海上メットライフ生命は一切の責任を負いません。
- ・特別勘定のユニットプライスの値動きは、特別勘定が投資対象とする投資信託の値動きと必ずしも一致しません。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有することがあることや、ユニットプライスの計算に当たり保険関係費等の費用を控除すること等によるものです。

個人年金は、未来への贈りもの。

**三井住友海上メットライフ生命**  
Mitsui Sumitomo MetLife

## 中央三井バランスVA25

- ・変額個人年金保険は特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、ご契約者が投資信託を直接保有するものではありません。
- ・当資料は、運用会社が作成する運用報告を三井住友海上メットライフ生命が参考情報としてそのまま提供するものであり、内容に関しては、三井住友海上メットライフ生命の責めによるものを除き、三井住友海上メットライフ生命は一切の責任を負いません。
- ・特別勘定のユニットプライスの値動きは、特別勘定が投資対象とする投資信託の値動きと必ずしも一致しません。これは、特別勘定が投資信託のほかにも保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有することがあることや、ユニットプライスの計算に当たり保険関係費等の費用を控除すること等によるものです。

ファンド名：中央三井バランスVA25

作成基準日：2006年4月28日

## ファンドの特色

主として、中央三井日本株式マザーファンド受益証券、中央三井日本債券マザーファンド受益証券、中央三井外国株式マザーファンド受益証券および中央三井外国債券マザーファンド受益証券に投資し、内外の株式・公社債への分散投資をすることにより長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

基本配分比率は国内株式15%、国内債券40%、外国株式10%、外国債券35%とします。

上記の基本配分比率には各資産毎に一定の変動幅を設けます。また、市況動向等の変化に応じて当該基本配分比率の見直しを行なう場合があります。

実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては原則為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、為替予約取引等を活用する場合があります。

運用の効率化を図るため、株価指数先物取引および債券先物取引等を活用することがあります。このため、株式および債券の組入総額と株価指数先物取引および債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

## ファンドの状況

## 基準価額等

		前月末比
基準価額	10,007円	-86円
解約価額	10,007円	-86円
純資産総額	6,593百万円	+2,351百万円

- 1) 基準価額は信託報酬控除後
- 2) 純資産総額は百万円未満四捨五入

## 信託財産の構成

	基準日現在	目標資産配分	差異
日本株式マザー	15.0%	15.0%	0.0%
日本債券マザー	39.9%	40.0%	-0.1%
外国株式マザー	10.0%	10.0%	0.0%
外国債券マザー	35.1%	35.0%	0.1%
コール他	-0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	0.0%

(注) 投資信託純資産総額比

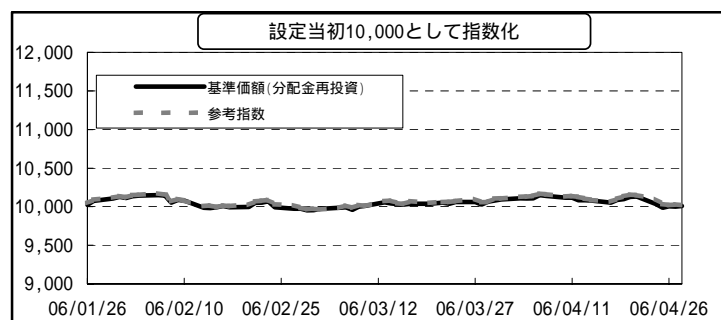
## 基準価額の騰落率

ファンド設定日：2006/01/26

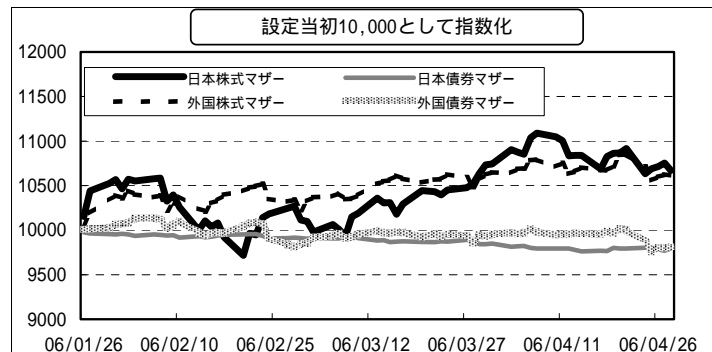
	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	-0.9%	+0.3%	-1.2%	-	-	-	+0.1%
参考指数	-0.9%	+0.3%	-1.2%	-	-	-	+0.2%
差	+0.0%	-0.0%	-0.0%	-	-	-	-0.1%

(注) 参考指数は、当ファンドが組入れている各資産(マザーファンド)のベンチマーク収益率に、各基本資産配分比率を乗じて当社にて算出したものです。

## 基準価額の推移(当ファンド)



## 【ご参考】マザーファンドの推移



## 4月の市場動向

- 【日本株式】 国際優良株を中心に大きく上昇して始まり、TOPIXは2000年の高値を抜き、91年以来の水準まで上昇しました。その後、原油高や金利上昇への警戒感、外国人投資家の姿勢が大幅売り越しになったことなどから調整する展開となりました。
- 【日本債券】 国内長期金利は、堅調な株式市場を背景に月中旬にかけて上昇基調で推移し、一時は1999年8月以来となる2.0%をつけました。その後は金利上昇に歯止めがかかり、1.9%台中心の推移となりました。
- 【外国株式】 米国株式市場は、好業績とインフレ・利上げ懸念が交錯するなか、高値圏での揉み合いとなりました。欧州株式市場についても、商品市況の上昇で素材株が上昇したものの、相場全体としては揉み合う展開でした。
- 【外国債券】 欧米の長期金利は、概ね良好な経済環境や、原油、金、銅等、商品市況高騰の影響などから総じて上昇基調となりました。

## 中央三井バランスVA37.5

- ・変額個人年金保険は特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、ご契約者が投資信託を直接保有するものではありません。
- ・当資料は、運用会社が作成する運用報告を三井住友海上メットライフ生命が参考情報としてそのまま提供するものであり、内容に関しては、三井住友海上メットライフ生命の責めによるものを除き、三井住友海上メットライフ生命は一切の責任を負いません。
- ・特別勘定のユニットプライスの値動きは、特別勘定が投資対象とする投資信託の値動きと必ずしも一致しません。これは、特別勘定が投資信託のほかにも保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有することがあることや、ユニットプライスの計算に当たり保険関係費等の費用を控除すること等によるものです。

Marvelous

ファンド名：中央三井バランスVA37.5

作成基準日：2006年4月28日

## ファンドの特色

主として、中央三井日本株式マザーファンド受益証券、中央三井日本債券マザーファンド受益証券、中央三井外国株式マザーファンド受益証券および中央三井外国債券マザーファンド受益証券に投資し、内外の株式・公社債への分散投資をすることにより長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

基本配分比率は国内株式20%、国内債券30%、外国株式17.5%、外国債券32.5%とします。

上記の基本配分比率には各資産毎に一定の変動幅を設けます。また、市況動向等の変化に応じて当該基本配分比率の見直しを行なう場合があります。

実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては原則為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、為替予約取引等を活用する場合があります。

運用の効率化を図るため、株価指数先物取引および債券先物取引等を活用することがあります。このため、株式および債券の組入総額と株価指数先物取引および債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

## ファンドの状況

## 基準価額等

		前月末比
基準価額	10,113円	-83円
解約価額	10,113円	-83円
純資産総額	619百万円	+182百万円

- 1) 基準価額は信託報酬控除後
- 2) 純資産総額は百万円未満四捨五入

## 信託財産の構成

	基準日現在	目標資産配分	差異
日本株式マザー	19.9%	20.0%	-0.1%
日本債券マザー	29.9%	30.0%	-0.1%
外国株式マザー	17.6%	17.5%	0.1%
外国債券マザー	32.6%	32.5%	0.1%
コール他	-0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	0.0%

(注) 投資信託純資産総額比

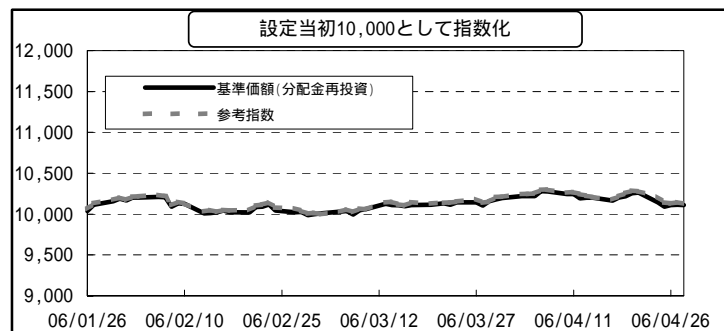
## 基準価額の騰落率

ファンド設定日:2006/01/26

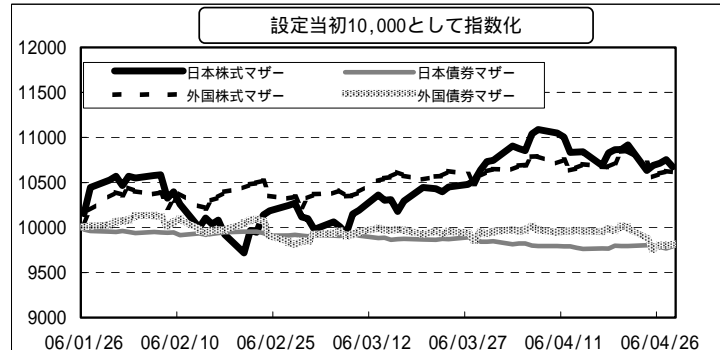
	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	-0.8%	+0.9%	-0.8%	-	-	-	+1.1%
参考指数	-0.8%	+0.9%	-0.7%	-	-	-	+1.3%
差	+0.0%	-0.0%	-0.0%	-	-	-	-0.1%

(注) 参考指数は、当ファンドが組入れている各資産(マザーファンド)のベンチマーク収益率に、各基本資産配分比率を乗じて当社にて算出したものです。

## 基準価額の推移(当ファンド)



## 【ご参考】マザーファンドの推移



## 4月の市場動向

- 【日本株式】 国際優良株を中心に大きく上昇して始まり、TOPIXは2000年の高値を抜き、91年以来の水準まで上昇しました。その後、原油高や金利上昇への警戒感、外国人投資家の姿勢が大幅売り越しになったことなどから調整する展開となりました。
- 【日本債券】 国内長期金利は、堅調な株式市場を背景に月中旬にかけて上昇基調で推移し、一時は1999年8月以来となる2.0%をつけました。その後は金利上昇に歯止めがかかり、1.9%台中心の推移となりました。
- 【外国株式】 米国株式市場は、好業績とインフレ・利上げ懸念が交錯するなか、高値圏での揉み合いとなりました。欧州株式市場についても、商品市況の上昇で素材株が上昇したものの、相場全体としては揉み合う展開でした。
- 【外国債券】 欧米の長期金利は、概ね良好な経済環境や、原油、金、銅等、商品市況高騰の影響などから総じて上昇基調となりました。

CMAM

設定・運用は、中央三井アセットマネジメント (<http://www.cmam.co.jp>)

当資料は三井住友海上メットライフ生命のMarvelous(変額個人年金保険(2005))の特別勘定が主たる投資対象とする投資信託の運用状況を開示するためのものであり、当該投資信託の勧誘および生命保険契約の募集を目的としたものではありません。なお、商品の詳細につきましては、商品パンフレット、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をご覧ください。

当資料に記載されているいかなる情報も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、記載されているコメント等は当資料作成時点の見解に基づくものであり、予告なく変更されることがあります。

特別勘定が主たる投資対象とする投資信託は、株式・公社債など値動きのある証券等に投資します。外貨建資産にはこの他に為替変動もあります。特別勘定では資産運用の結果が直接積立金額に反映されることから、運用実績によっては、お受取りになる積立金額や解約払戻金の合計額が、払込保険料の合計額を下回る可能性があります。特別勘定の運用に伴うこれらの投資リスク・為替リスクはすべてご契約者に帰属します。

MSML-0605-B-844-01

引受保険会社

三井住友海上メットライフ生命  
Mitsui Sumitomo MetLife

## 中央三井バランスVA50L

- ・変額個人年金保険は特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、ご契約者が投資信託を直接保有するものではありません。
- ・当資料は、運用会社が作成する運用報告を三井住友海上メットライフ生命が参考情報としてそのまま提供するものであり、内容に関しては、三井住友海上メットライフ生命の責めによるものを除き、三井住友海上メットライフ生命は一切の責任を負いません。
- ・特別勘定のユニットプライスの値動きは、特別勘定が投資対象とする投資信託の値動きと必ずしも一致しません。これは、特別勘定が投資信託のほかにも保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有することがあることや、ユニットプライスの計算に当たり保険関係費等の費用を控除すること等によるものです。

ファンド名：中央三井バランスVA50L

作成基準日：2006年4月28日

## ファンドの特色

主として、中央三井日本株式マザーファンド受益証券、中央三井日本債券マザーファンド受益証券、中央三井外国株式マザーファンド受益証券および中央三井外国債券マザーファンド受益証券に投資し、内外の株式・公社債への分散投資をすることにより長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

基本配分比率は国内株式25%、国内債券25%、外国株式25%、外国債券25%とします。

上記の基本配分比率には各資産毎に一定の変動幅を設けます。また、市況動向等の変化に応じて当該基本配分比率の見直しを行なう場合があります。

実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては原則為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、為替予約取引等を活用する場合があります。

運用の効率化を図るため、株価指数先物取引および債券先物取引等を活用することがあります。このため、株式および債券の組入総額と株価指数先物取引および債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

## ファンドの状況

## 基準価額等

		前月末比
基準価額	10,217円	-77円
解約価額	10,217円	-77円
純資産総額	15,551百万円	+6,358百万円

1) 基準価額は信託報酬控除後

2) 純資産総額は百万円未満四捨五入

## 信託財産の構成

	基準日現在	目標資産配分	差異
日本株式マザー	24.9%	25.0%	-0.1%
日本債券マザー	24.9%	25.0%	-0.1%
外国株式マザー	25.1%	25.0%	0.1%
外国債券マザー	25.1%	25.0%	0.1%
コール他	0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	0.0%

(注) 投資信託純資産総額比

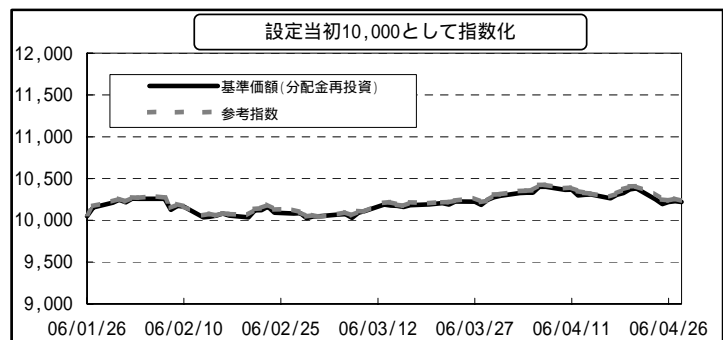
## 基準価額の騰落率

ファンド設定日：2006/01/26

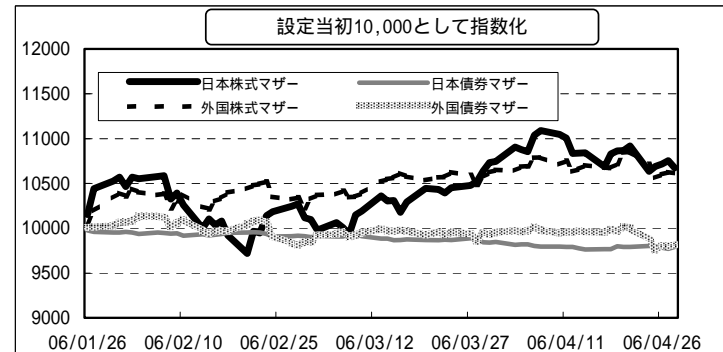
	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	-0.7%	+1.3%	-0.3%	-	-	-	+2.2%
参考指数	-0.8%	+1.3%	-0.3%	-	-	-	+2.3%
差	+0.0%	-0.0%	-0.0%	-	-	-	-0.2%

(注) 参考指数は、当ファンドが組入れている各資産(マザーファンド)のベンチマーク収益率に、各基本資産配分比率を乗じて当社にて算出したものです。

## 基準価額の推移(当ファンド)



## 【ご参考】マザーファンドの推移



## 4月の市場動向

- 【日本株式】 国際優良株を中心に大きく上昇して始まり、TOPIXは2000年の高値を抜き、91年以来の水準まで上昇しました。その後、原油高や金利上昇への警戒感、外国人投資家の姿勢が大幅売り越しになったことなどから調整する展開となりました。
- 【日本債券】 国内長期金利は、堅調な株式市場を背景に月中旬にかけて上昇基調で推移し、一時は1999年8月以来となる2.0%をつけました。その後は金利上昇に歯止めがかかり、1.9%台中心の推移となりました。
- 【外国株式】 米国株式市場は、好業績とインフレ・利上げ懸念が交錯するなか、高値圏での揉み合いとなりました。欧州株式市場についても、商品市況の上昇で素材株が上昇したものの、相場全体としては揉み合う展開でした。
- 【外国債券】 欧米の長期金利は、概ね良好な経済環境や、原油、金、銅等、商品市況高騰の影響などから総じて上昇基調となりました。